

## ねらい

私たちの生活や世界での出来事には、それら一つ一つにそれぞれの原因や理由がある。と同時にこれらの一つ一つの出来事は、様々な人なり地球環境なり社会現象なりに影響を与え、時には私たちの予想を越えた結果を生むことも多々ある。

ここでは、ゴミをめぐる様々な問題が、社会経済や地球環境そして人々の生活様式や価値観と密接に関連していることや、現在だけではなく未来世代に関わる問題でもあること、ゴミは他地域や地球規模の広がりを持つことを理解させたい。

さらには、私たち自身がゴミの生産者であることに気づかせ、子どもたちが日々の生活を自覚を持っておくようになってほしい。

## 学習者の目標

- 知識** ●ゴミ問題が社会経済や地球環境、そして人々の生活様式や価値観と密接に関連していることを理解する。
- 技能** ●ゴミをめぐる問題を多様な視点で分析することができる。  
●対立する状況を解消するための効果的な対話ができる。
- 態度** ●ゴミを通して、私たちの生活が地域社会や世界をつながっていることに関心をいだき、自分の生活を見直し、未来に向けての「新しい習慣」を見出すことができる。

**対象** 小学校高学年以上

### 学習計画

総時間  
**10**  
時間

	内 容	時間	主 な 手 法
1	モノがゴミラになる時	1	シミュレーション
2	ゴミラの行方	3	フィールドワーク、シミュレーション
3	遠くから押しよせるゴミラ	2	ロールプレイ
4	あなたのゴミラは私の宝物	1	シミュレーション
5	世界の生活「いるもの」「いないもの」	1	フォトランゲージ
6	2050年・宇宙船地球号の旅立ち	1	シミュレーション
7	「新しい習慣」に挑戦する週間	1	

## 1 モノがゴミになる時 (1時間)

(主な手法：シミュレーション)

1. 各自自分の家庭で、ゴミとして出す予定の「不用品リスト」を作成し、その中から一点、「不用品」を持ってくる(写真やイラストでもよい)。
2. 教室に集められた「不用品」を地域のゴミ処理方法によって分別する。
3. 分別されたゴミの中から「使えるもの」を探してシールを貼る。
4. 自分の持ってきた不用品に「使えるもの」のシールが貼られた時、どんな気持ちだったか、モノがゴミになる瞬間はいつなのかなどについて話し合う。

## 2 ゴミラの行方 (3時間)

(主な手法：フィールドワーク、シミュレーション)

1. 「清掃センター」など地域のゴミ処分場を調査する時の視点を考える。

### 視点例

- 処理の方法、処理するゴミの種類、問題点 など
2. ゴミ処分場に行き、職員の人にインタビューなどして調査する。
  3. 「地域に新しいゴミ処理のための施設をつくる必要ができた」と仮定して、さきの調査内容をもとに、各グループで新しい処理施設の建設をシミュレーションする。
    - ① 地域の地図に「建設候補地」を書き込む。
    - ② 「建設候補地」のメリット・デメリットを考える。
    - ③ 新しいゴミ処分場候補地について発表する。
  4. どうしてその場所を選んだのか、自分たちにとって、ゴミって何なのかについて話し合う。

## 3 遠くから押しよせるゴミラ (2時間)

(主な手法：ロールプレイ)

1. 自分の身近かに置きたくないゴミや「迷惑施設」のゴミ処分場を、地方の町に持ち込んで処理する「広域処分」のあり方をロールプレイを通して体験し、その問題点を考える。(→「ロールプレイ」P67)

### 問題状況の例

- これまでは自分が出したゴミは自分の住む市町村で処理することになっていた。しかし、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下、廃掃法)」が改正され、自分が出した家庭ゴミを別な市町村で処理してもいいことになった。
- 首都圏の『とかい市』は自区内のゴミ最終処分場の許容量が限界になっているにもかかわらず、ゴミは一向に減らない。
- そこで、「廃掃法」の改正もあり、自区内で処理しきれないゴミを地方で処理させることを思いつく。
- ある地方の『いなか町』に首都圏の家庭ゴミを処理する処分場が建設された。

### 役割カードの例

- 地方の『いなか町』の住民
  - ・私は、この町に主だった産業もなく、町の活気のなさ、貧しさを悲しんでいる。
  - ・私は、ダイオキシンなどの汚染物質による生活用水や土壌など環境の汚染を心配している。
- 地方の『いなか町』の町長
  - ・町には大きな産業もなく、財政の状況もきびしい。また、公共施設の建設による多額の負債を抱えている。私は町長として町の将来を心配している。
  - ・処分場からでる汚染物質に対する住民の不安が高まることを危惧している。
- 首都圏の『とかい市』の市民
  - ・私は地域のゴミ問題に対する意識も高く、リサイクルや分別の活動にも賛成している。
  - ・でも、町には便利な使い捨ての商品があふれ、それを利用することも多い。
  - ・自分の地域のゴミ処分場がもうすぐ満杯になり、ゴミが町にあふれるのではないかと不安がある。しかし、自分の住む町に新しい処分場を作ることは強く反対している。



## 発 展

### ■海外「ゴミラ」事情

1. 「ゴミ外交官」となって、インターネットや書籍、新聞などで「赴任国」のゴミ情報を調べる。

#### 情報収集の視点例

- 埋立や焼却などの処理の仕方
- リサイクルやリユースのシステム
- 一人あたりのゴミ排出量
- ゴミ減量化の取り組みなど

#### 赴任国例

- ゴミを焼却処分しないで広大な土地にどんどん埋め立てるアメリカ
- 徹底的な分別とリサイクル・リユースのシステムが整っているドイツや北欧諸国
- ゴミが「宝の山」となっているフィリピンなどの発展途上国

2. 自分たちのゴミ処理と比較し、その長所・短所を明らかにした報告書（レポート）をまとめる。

### ■在住外国人または海外滞在経験者へのゴミについてのインタビューをする。

#### インタビュー例

- 母国や滞在国のゴミについての考え方や処理の方法
- 日本のゴミやその処理方法についての感想
- 日本のゴミ処理の問題点や改善点

## 6 2050年宇宙船地球号の旅立ち（1時間）（主な手法：シミュレーション）

1. 『2050年宇宙船地球号で宇宙に旅立つことになった。新しい星を探すために、長い間閉鎖された宇宙船に住まなければならない。宇宙船は小さく持ち込める「モノ」と「未来の技術」は一人3つまで』という仮想の状況で、宇宙で生き延びるために何が必要かグループで話し合い、それをポスターにまとめる。（詳しくは、『ワールド・スタディーズ（P160）』（国際理解教育センター発行）または、『ステップ1・2・3'95（P12）』（経済企画庁国民生活局発行）を参照のこと）
2. ポスターセッションを行い、それぞれの宇宙船のすぐれたところを探す。（→「ポスターセッション」P29）
3. ゴミの循環という視点で話し合う。

## 7 「新しい習慣」に挑戦する週間（1時間）

1. ゴミに関する自分自身の「以前の習慣」について話し合う。
2. ゴミの学習を通して見つけた望ましいゴミについての考え方や扱い方を「私ができる新しい習慣」として「私は以前・・・していた。でも、これから・・・する」という文章で発表する。
3. 「新しい習慣」に挑戦する週間と名づけて、一定期間を設けて行動を起こし、実現できた事はみんなでお祝いのセレモニーをする。
4. 自分の達成度を振り返りながら、対象者の範囲を自分自身からすこしずつ広げていき、それぞれに「○○●でできる新しい習慣の提案」の手紙を送り、それぞれのゴミへの意識が原因となっている未来の環境への影響などについて分りやすく伝える。

#### 手紙例

- 家庭でできる新しい習慣の提案
- 学校でできる新しい習慣の提案
- 商店でできる新しい習慣の提案
- 行政でできる新しい習慣の提案
- 企業でできる新しい習慣の提案